ディボーションノート　２５

|  |
| --- |
| ６月２２日(月曜)　 歴代志下　第１６章   * アサ王(前913－873年在位)　は心を尽くし精神を尽くして神に信頼したので、35年間は戦争のない平安な時代でした。36年目に北王国イスラエルのバアシャ(前900－877年在位)からの攻撃を受けます。アサ王は神に頼らず、金銀をスリヤの王ベネハダデに送り同盟に頼りました。今の国際関係も同じに見えます。「今度の事では、あなたは愚かな事をした。ゆえにこの後、あなたに戦争が臨む。」と忠告した先見者ハナニを投獄し、アサは圧制を加える王に堕落しました。35年が善政であっても、最後の5年が信仰を捨て、周辺国に頼り、「主を求めないで医者を求め」ました。力も癒やしも、死も命も、真実な救い主イエス・キリストを送られた神の手にあります。大きな御手の中で、神に信頼し、神に造られた私らしく生きる日々を送らせていただきましょう。信仰がなくては神に喜ばれることはできない(ヘブル11:6)。神を喜ぶことこそ真の喜びです。 |
| ６月２３日(火曜)　 歴代志下　第１７章  　アサ王に続いて、17－20章はヨシャパテ王(前873－849年在位)の物語です。彼は35歳で王となり25年間、南王国を治めました。歴代志は4章も費やして語ります。偶像を廃棄し、神の律法を重んじて政治を行ったので、周辺国はユダを恐れて、戦争を仕掛けて来ませんでした。神に忠実に従い国を形成するならば、確固とした国が形成できることの実証です。神を畏れる人の周りに陣を敷いて守られる神・主イエス・キリスト・聖霊(詩篇３４篇)。 |
| ６月２４日(水曜)　 歴代志下　第１８章  　北王国のアハブ王の娘をヨシャパテの子ヨラムがめとり、親戚となりました。そこでアハブ王は東の大国スリヤを攻撃するので、援助してほしいと誘います。ラモテ・ギレアデは死海の北東87キロになる重要な都市で、今はスリヤの支配下にありました。次々に登場する「偽預言者」は攻めることに賛成しますが、それは王様を喜ばすための預言で偽りでした。ヨシャパテには平安がありません。ついに登場する真の預言者ミカヤは、神がなさろうとすることの本当の意味を語ります。これを聞いて不安を感じたアハブ王は、姿を変えて戦場に行きます。全ては神の前にあります。33節の「しかし、ひとりの人が、何ごころなく弓を引いて、イスラエルの王の胸当と、くさずりの間を射た」のは、まさに神の審判です。数センチの隙間に矢が突き刺さり、アハブ王は死にます。 |
| ６月２５日(木曜)　 歴代志下　第１９章  　先見者ハナニの子エヒウは、生き延びて帰国したヨシャパテに、真実な言葉  を語ります。大きな失敗を悔い改めなさい。①偶像を取り除き、②心を傾けて  神を求め、③主に人々を導き、④主を恐れ、真実と真心とをもって政治を行う  ようにと。次の言葉は味わうべき言葉です。「われわれの神、主には不義がなく、  人をかたより見ることなく、まいない(賄賂)を取ることもない」。「あなたがたは  主を恐れ、真実と真心とをもって行わなければならない。」「雄々しく行動しな  さい。主は正直な人と共におられます。」信仰とは、功利的なことを優先せず、  正義・公義・正直を第一に生きる道です。 |
| ６月２６日(金曜)　 歴代志下　第２０章  「海のかなた」とは「死海の南方」のことで、そこにはエドムという大国があり、大軍が攻め来て、エンゲデ(エルサレムの東40キロ)にまで迫っているとの知らせが入ります。ヨシャパテ王は会衆と共に礼拝します。「主よ、あなたは天にいます神。力あるお方。」と祈ります。「あなたの友アブラハムの子孫」である我々は、「ただ、あなたを仰ぎ望むのみです。」と信頼します。主の霊がヤハジエルを通じて語られます。「恐れるな。あなた方が戦うに及ばない。主の勝利を見よ。主はあなたがたと共におられる。」この礼拝は恐れ歎く者から神に信頼し賛美する者に、全ての人を変えてしまいます。先頭は神を賛美する美しく飾られた聖歌隊で、軍勢はその後です。そして「主に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。」が戦場に響き出すのです。絶体絶命の中で賛美がはじまると・・・・・。 |
| ６月２７日(土曜)　 歴代志下　第２１章  　ヨシャパテの子ヨラムは北王国のアハブ王の娘をめとり、これが国の混乱を招きました。32歳で王となり、兄弟をことごとく殺し、8年間(前849－842年)  治めますが、死んだときに「ひとりも彼を惜しむ者がなかった」とあります。南王国ユダを悩ませ、預言者エリヤの預言を無視しました。時代的には、エリヤは北王国の預言者で、ヨラムが即位したときには天に昇っていたので、ここからいろいろな解釈が生まれてきます。エリヤは数年生存していたとか、霊が語ったとか、エリヤの偉大を借りて語ったとか。大切なのは、神を捨てて偶像を礼拝し、偶像に頼るのは、「姦淫」の罪であることです。信仰とは神にのみ信頼する生活です。礼拝はもちろん、生活の全ての時で、神を喜び、神に賛美し、神を讃えて進みましょう。 |